

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890200096		
法人名	社会福祉法人 光朔会		
事業所名	グループホームオリンピア篠原		
所在地	兵庫県神戸市灘区篠原本町3丁目2-4		
自己評価作成日	2021年1月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/28/">http://www.kai gokensaku.jp/28/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H. R. コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	2021年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

6年目を迎えたオリンピア篠原は「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の基、お一人おひとりの「その人らしさ」を大切に、これまで通りの尊厳ある生活を送るお手伝いをさせて頂いている。今年度はコロナ禍により「新しい生活様式」を模索する一年となった。外出する機会が減った分、ホーム内で季節を感じていただく作品作りに取り組んで楽しんで頂いた。また、SNSやテレビ電話での面会等これまでの繋がりが継続できるような環境を整えた。職員は正職、パート職ともスキルアップするための研修を受けることができ、各々の成長とケアの向上に繋げている。法人内では、初任者研修・リーダー研修等様々な研修を実施している。また、リモートによる外部研修等にも積極的に参加している。オリンピア創設から脈々と受け継がれてきた「イエス・キリストの愛と奉仕の精神」を遵守し、これからもより一層の飛躍を目指していく。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム開設以来、地域交流・外出行事・家族参加でのイベント等に注力し、家族や地域と繋がりがながらかこれまで通りの開かれた生活が継続できるように取り組んでいる。今年度はコロナ禍の中、職員がアイデアを出し合って協力し、様々な工夫と新しい取り組みを行っている。児童館の子ども達とビデオレターと手作りのプレゼント交換で交流を継続している。家族には従来の報告に加え、SNSやテレビ電話により映像と音声で様子が伝えられるように工夫している。一緒に制作した季節の飾り、夏祭り・ハロウィン・クリスマスミサ等イベントを大規模に行い、ホーム内で季節を感じたりイベントが楽しめる機会作りを多数行っている。手作りの献立・調理等の家事・ガーデニング・体操・塗り絵・書道など趣味や得意を活かして、楽しみや役割を持って自立した生活が継続できるよう個別支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生活の主人公は利用者ご本人です。今まで通りの生活を送るお手伝いをさせていただきます。」を理念とし、その実現のために「3つの約束」を掲げている。毎日の朝礼時、遅出、夜勤出勤時に唱和することにより、日々のケアの礎とし、共有・実践している。各ユニットの年間ビジョン、月間目標も理念に基づいており、スタッフ全員で話し合っ決めて、月間予定表に記載し、いつでも確認できるようにしている。	オリンピアの「理念」「3つの約束」を明文化し、「オリンピアの思い」の中に地域密着型サービスとしての意義が盛り込まれている。各ユニットに掲示し、毎日の朝礼時に職員と入居者が一緒に唱和し、入居者も含め共有を図っている。遅出・夜勤の出勤時にも職員が唱和を行い、日々意識付けが行えるよう取り組んでいる。「理念」をすべての礎とし、カンファレンス等でも理念に立ち戻って検討している。法人・ホームの事業計画を回覧し、職員にも周知を図っている。理念・事業計画をもとに、各ユニットの年間ビジョン・月間目標を職員の意見を集約して設定し、理念の実践に向け取り組んでいる。月間目標を日々記録する「月間予定表」に記載し、職員が常に確認できるよう工夫している。「月刊オリンピア篠原」にも掲載し、家族等にも伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、3月以降の地域のイベント、児童館、こども園との交流等一切中止となった。また、日々の外出や買い物等も、控えることが多くなった。児童館との交流も中止となったが、敬老のお祝いでビデオレターとタペストリーを頂き、お返しに入居者の皆さんと手作りしたマスクを、プレゼントするなど、交流を続けている。	通常は、散歩・買い物・外食等の日常的な外出や地域行事への参加で積極的に地域に出かけ、ボランティアの来訪・児童館や子ども園との交流・イベント時の地域からの参加等、地域交流の機会を数多く設けている。今年度は、外出や交流が困難な状況にあるが、自治会・民生委員との連携や地域からの介護相談の対応等は継続している。また、敬老の日のお祝いに児童館からビデオレターとタペストリーが届けられ、入居者が手作りしたマスクや箸袋をお礼に届ける等、交流が継続できるよう工夫し取り組んでいる。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方や、入居者、元入居者のご家族のご紹介で、来られた方に対しては、随時ホームを見て頂き、介護に関する相談や説明する時間を設けている。	/	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍で運営推進会議は、開催できていない。開催月毎に、メンバー全員にオリンピア篠原のご様子をお手紙にし、「月刊オリンピア篠原」と一緒に郵送している。また、電話にて近況報告等もその都度行い、オリンピア篠原の様子、地域の様子等を情報交換している。	通常は、入居者・家族・あんしんすこやかセンター職員・民生児童委員・地域代表・行政書士(知見者)・薬剤師・ホーム関係者を構成メンバーとし、2ヶ月に1回開催している。入居者・家族の参加が多数ある。議事録をホームページで公開し、開催内容は「月刊オリンピア篠原」にも掲載している。令和2年3月以降は会議の開催を休止し、書面会議を行っている。入居者状況、行事・活動の実施と予定、管理者・各ユニットリーダーからの入居者や生活の様子についての説明等、2ヵ月間の報告を書面にまとめ、構成メンバーに郵送している。「月刊オリンピア篠原」や、時期に応じたテーマでの情報提供の資料も同封している。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者やあんしんすこやかセンター職員とは、随時電話で情報交換を行っている。神戸市が開催する集団指導や、リモートによる研修に積極的に参加し、日常業務に役立っている。	あんしんすこやかセンター職員に、運営推進会議の議事内容を郵送しホームの状況等を伝えている。情報交換や不明な点についての相談等、市の担当者やあんしんすこやかセンター職員と、随時連携を図っている。市が主催するリモート研修に積極的に参加し、受講者以外の職員も資料の作成協力や研修内容の伝達を通して学ぶ機会を共有し、サービスの質向上につなげている。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>身体拘束廃止の理念を全スタッフが共有するため、アンケートや研修を実施し、日々のケアに問題がないか等も常日頃から注意している。また、玄関やエレベーターには日中鍵をかけず、自由に出入りができるようにしており、心理的な鍵もかけないように取り組んでいる。</p>	<p>法人として、行動を制限しない自由な生活を根本的な方針とし、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束適正化のための指針」を整備し、「身体拘束廃止委員会」を3か月に1回開催している。会議では、各ユニットの拘束事例0件の確認と入居者の状況の共有を行い、行動制限しないリスクへの対応方法を入居者個々に検討している。スピーチロックについての注意喚起等、今後の取り組みについても話し合っている。議事録は各ユニットで回覧し、職員の周知を図っている。今年度は、「法人の全体研修」が実施できないため、研修方法を工夫し、ホーム内で「身体拘束廃止・高齢者虐待防止」研修を3回実施している。ユニット・エレベーター・玄関は、日中は施錠を行っていない。</p>	
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>高齢者虐待防止を理念の根本とし、研修において定義や関連法、日々のケアについて学んでいる。また、日々のケアにおいて虐待に繋がりそうなことがないか注意しながら取り組んでいる。</p>	<p>「身体拘束廃止・高齢者虐待防止」について、資料による自己学習(レポート提出)、新聞記事をもとにしたカンファレンスとチェックリストによる研修、ビデオ視聴による不適切ケア研修を行い、全員が学ぶ機会を持ち、スピーチロックや心理的な虐待についても具体的に理解できるように研修方法を工夫している。気になる言葉かけがあれば、リーダーだけでなく、職員間でも注意喚起できる関係作りに努めている。気づきがあればリーダーから積極的に様子を聴き、ユニット内も話しやすい環境づくりに努め、職員の不安やストレスがケアに影響しないように取り組んでいる。</p>	

グループホームオリンピア篠原

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンス研修による権利擁護の研修を受け、制度の概要、利用の仕方を学び、相談があった場合には速やかに支援ができるように関係機関との関係を作っている。現在成年後見制度を利用している方は2名おられる。	毎年、行政書士による権利擁護に関する制度についてのレクチャーを実施し、研修記録の回覧で、職員に周知を図っている。今年度は集合研修が困難なため、これまでの研修記録やリーフレットの回覧を予定している。現在、2名の入居者が成年後見制度を利用し、後見人と連携し制度利用を支援している。法人として行政書士事務所と連携があり、制度利用の必要性や家族からの相談があれば、管理者が窓口となり対応できる仕組みがある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には自宅訪問もしくは見学を兼ねて来所して頂き、契約に関することについて十分に時間を取り説明し、理解・納得して頂いた上で契約をしている。また、解約、改定等の際にも十分に時間を取りご説明させていただいている。	契約前の自宅等への訪問やホームの見学の際に、管理者とユニットリーダーが時間をかけて説明している。本人・家族から現在の生活状況や入居後に望まれる暮らし等について聴き取りを行い、管理者が法人の理念や方針を、ユニットリーダーがホームでの生活について具体的に説明し、理解と納得が得られた上で契約につなげるようにしている。自由な暮らしを大切にする法人の理念とリスク、重度化対応等については、特に詳細に説明している。契約時は契約書・重要事項説明書・各種同意書に沿って説明を行い、文書で同意を得ている。契約内容改定の際は、変更内容を明記した文書を作成し、電話等でも説明し、文書で同意を得ている。	

グループホームオリンピア篠原

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>コロナ禍で面会自粛のお願いが多くなった。直接会うことが難しい時はオリンピアから電話にて直接ご家族とお話して頂き、例年以上に電話での情報交換を大事にした。また、SNSを使ってオリンピア通信を発信し、ご家族からのご意見もSNSを通じてお聴きすることが多くあった。また、全職員がすぐに対応できるよう口頭での申し送りに加え、連絡ノートでの回覧により周知している。</p>	<p>通常は家族の面会が多く、家族懇談会・ホーム内の行事や外出行事等の機会に、入居者の様子やホームの活動等を伝え、家族の意見や要望の把握に努めている。運営推進会議に入居者・家族の出席があり、ホームや外部の人に意見を表す機会も設けている。今年度は面会やイベントの実施が困難なため、職員から電話での報告や要望の聴き取りを頻回に行うように努めている。「月刊オリンピア篠原」の発行や、手紙やはがきのやり取りは継続している。また、入居者と家族が電話やテレビ電話で直接話したり、ライン・SNSを使ってオリンピア通信を発信したり、動画で伝える等、映像や音声で入居者の様子が伝えられるよう工夫し取り組んでいる。家族から把握した要望は、申し送りや連絡ノートで共有し迅速な対応に努めている。</p>	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>職員の意見やチャレンジを積極的に採用している。職員は日常的にリーダー、管理者に相談できる形がある。また紙面カンファレンスを定期的実施したり、ユニット毎のグループラインを利用して職員をフォローし応援、支援している。</p>	<p>毎月、各ユニットで数回に分けてカンファレンスを行い、職員全員の意見をユニットリーダーが集約し、職員の意見・提案を入居者のケアや支援、業務、行事、事故防止等に反映できるように取り組んでいる。日常的な意見・情報の交換や共有は、申し送り・連絡ノート・ユニット毎のグループラインを活用して行っている。検討内容に応じて紙面カンファレンスを行い、職員が議題の提案や意見の記入を自由に行い、ユニットリーダーが職員の意見を集約できる仕組みもある。定期的には、人事考課の面談(リーダー・管理者・ホーム長)で、職員が個別に意見を伝える機会を設けている。また、日頃から、話しやすい職場環境づくりに努め、随時個別に意見を聴く機会を設けている。</p>	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では職員一人ひとりの目的や目標を明確にし、各々のチャレンジが評価に直結するよう自己評価、人事考課という評価制度を導入している。また、ユニットリーダーは定期的に個別面談を行っている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験、能力に合わせて、新人研修、リーダー研修など研修制度がある。また、現場ではそれぞれに必要なトレーニングシートを作成し、チームで協力して育てている。働きながら資格取得を目指す職員もいる。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神戸市主催のオンラインによる認知症介護実践者研修、リーダー研修などの外部研修に職員が参加し、外部との交流やネットワークを作っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念のもと、入居者様の立場に立って、入居前・入居時にご本人の思いをしっかりとお聴きし、安心して新生活が迎えられるよう配慮している。見聞きした情報は、職員間で共有し、信頼関係の構築が早く出来るよう準備している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにご家族との面談や見学の場を設け、実際のケアを見ていただき、不安や要望などをお聴きし、把握している。ご家族の思いをしっかりと受け止め、信頼関係の構築の上、入居していただけるようにしている。		

グループホームオリンピア篠原

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後直ぐに24時間シートを活用し、ご本人の困り事やニーズを把握している。また、ご家族の不安等も的確に把握し、その時に必要な支援を見極めて提供している。他のサービスが必要な場合は、法人内で情報共有し、ご本人・ご家族にサービスの説明をしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「生活の主人公は入居者様であり、職員は生活のお手伝いをさせていただく。」という理念のもと、お互いが支え合い、時には入居者様から生活の知恵などを教えて頂きながら、共に生活を送っている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「今まで通りに誇りを持った生活を送って頂く」という理念のもと、SNSや電話を使って随時情報を発信し、ご家族の協力が必要であることをお伝えし、今までの生活を教えて頂いている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で日々の外出や美容院、お買い物、定期的に行かれていた教会など、入居後も継続されていたことが、出来にくい1年となった。しかし、馴染みの方との関係はお手紙のやり取りや、電話を掛けるなどして、これまで通りのつながりを大切にしてきた。	入居時の「生活歴シート」(家族記入)や、定期的に更新するセンター方式のシートをもとに、馴染みの人や場所についての情報の把握に努めている。日々の会話の中で把握した内容は、申し送りノートやiPadの「日記」で共有している。通常は、家族・友人・知人など馴染みの人の来訪が多く、また、個別やグループでの外出の機会に馴染みの店舗を利用したり教会礼拝に行く等、馴染みの関係継続を支援している。現在は、面会や外出が困難なため、電話・手紙・はがき・動画・SNS等を活用し、馴染みの関係が継続できるように工夫している。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、お互いが助け合い、支え合えるようお手伝いさせて頂いている。入居者様同士で相談し、作りあげていく生活が送れるよう支援している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス期間中に培った信頼関係を大切に、サービス利用終了後も、そのご家族や知人の方のサービスについて、相談を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナ禍で外出できない不安や不満を、日々の生活の中での会話や表情など、少しの変化にも注意し、ご本人の希望や思いを汲み取るよう努めた。室内でも季節を感じて頂けるよう、季節のアート作りを一緒に行った。また、個々の情報は職員間で共有し、日々のケアに反映させるようにしている。	理念の「これまで通りの生活を送る」の実践に向け、各種センター方式のシートを活用し、入居者個々の生活スタイルや暮らし方の希望の把握に努めている。定期的な再アセスメントでシートを更新し、変化や追記事項を記録し、支援や介護計画に反映できるよう取組んでいる。日々のコミュニケーションの中で把握した内容は、連絡ノート・紙面カンファレンス・ユニットカンファレンス等で共有を図っている。言葉での把握が困難な場合は、表情・行動から汲み取ったり、家族からの情報を参考に把握に努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「今まで通りの生活」を大切にするため、ご本人(センター方式によるアセスメント)、ご家族(入居時生活歴シート)から情報収集を行っている。これらを基に、生活スタイルの把握に努めている。		

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、お一人おひとりの生活状況・心身状況など新しい発見や些細な変化も正確に把握できるよう努めている。また、全職員が申し送りノートを活用し情報を共有している。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を伺い、日々の生活の中での様々な情報、主治医の意見も組み込んだカンファレンス、モニタリングを行っている。3ヶ月毎に見直しを行い、現状に即した介護計画をチームで作成している。	入居前の面談・家族記入の「生活歴シート」・センター方式の各種アセスメントシート等をもとに、初回の介護計画を作成している。「月間予定表」に、入居者個々の介護計画の具体的なサービス内容の番号を付けて表示し、介護計画に沿ったサービスを実施し記録できるよう記録様式を工夫している。入居者の状況や生活の様子は、iPadの「日誌」に詳細に入力し共有している。定期的には月末に数回に分けてユニット会議を行い、入居者の状況やケアについて職員全員の意見が集約できるよう取組んでいる。随時には「紙面カンファレンス」等でも検討している。職員の意見をもとに毎月モニタリングとアセスメントを行い、定期的には3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。介護計画見直しの際は、介護計画評価表でモニタリング、センター方式シートで再アセスメントを行いカンファレンスを実施している。カンファレンス議事録に前回計画からの考察と今後の指針を明確にし、入居者・家族の意向や主治医等関係者の意見も記録している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お一人おひとりの日々の生活の様子をiPadに入力し、記録している。その中でも特に必要な事柄は申し送りノートにも記録し、全職員で情報を共有し実践に活かしている。		

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、しっかり話し合いの場を設けている。ご本人にとって生活しやすい環境を整えるようにしている。看取りや重度化に関しても医療との連携を図り要望に応じている。また、住み慣れた地域で生活をしていけるように努めている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の行事がすべて中止となった。買い物や散歩といった外出も控えることが多く、ご家族も含めて来訪者もほとんどなかった。そんな中、児童館の子供達とは、直接は会えなかったが、ビデオレターやプレゼント交換等で繋がりを持つことが出来た。散歩等で出た際は近隣の方々と笑顔で挨拶を交わすことができた。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人・ご家族の希望に応じて、かかりつけ医を決定し、受診していただけるよう支援している。入居後も本人、ご家族の意向により主治医を変更することがある。コロナ禍で定期的な受診が難しい時は、かかりつけ医への情報提供をしっかりと行い、連携を取るようにしている。	入居時に入居者・家族の意向を確認し、かかりつけ医の訪問診療、協力医療機関による内科・歯科・皮膚科医の往診、通院による受診等、希望に沿った受診ができるよう支援している。適切な医療が受けられるよう、入居者の最近の様子やバイタル情報等の情報提供を行い、各医療機関と連携を図っている。受診結果は個別の往診記録や通院記録に記録して職員に回覧し、情報共有している。法人内の看護師が月1回来訪して健康管理を行い、随時にもラインで入居者個々の状況を報告し、異変時に相談し助言を得たり医療機関につなぐ体制がある。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来訪する法人内の看護師に適宜相談等を行い対応をとっている。事故報告、入退院情報等も随時連絡している。また個別に訪問看護が入る時には、密に連携を取りその方にとって最も安全、安楽なケアが行えるよう、情報共有している。		

グループホームオリンピア篠原

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院にこれまでのご様子等を情報提供し、共有している。また、定期的にご家族や、病院に電話連絡し、早期退院に繋げている。退院前には、医療機関、ご家族とのカンファレンスの場を持ち必要な対応方法等の最終確認を行い、安全に暮らしていただけるよう努めている。	入院時には利用者のADLや入院歴、日頃の様子や状況等を医療機関に書面で情報提供している。通常は、職員が仲の良い入居者と一緒に面会に行き、病院関係者とも情報交換している。現在は面会制限のため、主に電話で家族や病院関係者と連絡を密にとり、早期退院に向けた情報収集に努めている。把握した内容は議事録の回覧や申し送りノートで共有し、入院中の症状や経過は入院記録に記録している。退院時は「看護サマリー」「診療情報提供書」等の提供を受け、退院後の適切な支援に活かしている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の対応について説明している。その後もその都度状態に合わせて、ご本人・ご家族のご意向を伺うよう随時話し合いの場を設けている。その上で、必要な医療機関との連携を取り対応し、安楽に過ごして頂けるよう支援を行っている。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」に沿ってホームの方針を説明し、同意を得ている。日頃から医療関係者や家族との連絡を密にし、状況変化に応じて入居者・家族から今後の意向を確認して記録に残している。重度化を迎えた段階で主治医・看護師・家族・管理者・ユニットリーダーで話し合いの場を設け、主治医からの説明を受けて家族の意向を確認し、今後の方針についてカンファレンスを行い、都度議事録に記録し職員も共有している。看取りの希望があれば「看取り介護計画」を作成し、家族から今後の介護内容に関して同意を得ている。居室に家族が思いを込めて手作りした壁掛けや職員手作りの季節の作品を飾り、日常的な声掛け、誕生日お祝い等のイベント、居室のドアを開けてリビングの音が聞こえる配慮等、ベッド上でも孤立感や不安感を軽減し、自宅同様の家庭的な雰囲気の中で過ごせるよう職員が一体となって支援している。毎年法人で看取り研修を実施し、職員が学ぶ場を設けている。	

グループホームオリンピア篠原

自己 番号	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を定期的実施し、緊急時の連絡・報告体制を全職員が理解している。安全確保を最優先にし、その後の対応は指示の下に行う事の周知を徹底している。判断を誤らないよう、管理者とリーダーは情報共有を行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した消防避難訓練を実施し、それぞれの対応の仕方を身につけている。全スタッフが確認できるよう文書にて回覧し、周知徹底している。また地域の自治会との連携を図り、災害発生時にはお互いに協力が得られるようにしている。また各フロアには食料や水の備蓄を準備している。	年2回、点検業者立ち合いのもと昼間・夜間想定で消防避難訓練を実施している。今期は感染防止の為、利用者が実際に避難訓練に参加する事はできなかったが、通報・消火器の設置場所と使用方法・避難経路を確認し、実施内容は資料回覧で全職員が周知している。例年は運営会議や設備点検時に地域との連携体制を築き、避難場所として協力することを地域住民に伝えている。3日分の非常用食料・備品等を各ユニットリーダーが「備品在庫チェック表」で管理している。今年からICレコーダーを導入し、防犯対策の取り組みも強化している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「誇りを持った暮らしを続けるお手伝い」を実践するため「敬語でお話する」「尊厳ある生活のお手伝いをする」という約束事を全職員が理解し、徹底している。また、「不適切ケア」に関する動画を見て、スタッフの研修をしている。	「法人理念」と「3つの約束」を、毎朝入居者と一緒に、その他の出勤時には個別に唱和し、「敬語」「尊厳保持」について浸透を図っている。各種研修やカンファレンス時に繰り返し取り上げ、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について継続的に意識づけを行っている。研修の中で「不適切ケアチェック表」を活用して各職員が振り返る機会を設け、入居者一人ひとりの人格を尊重した支援に取り組んでいる。「月刊オリンピア篠原」の写真利用については入居時に同意を得ている。個人ファイルは各ユニット事務所の施錠できるキャビネットに保管している。	

グループホームオリンピア篠原

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の基、入居者様には自己決定していただける依頼形でのお声かけを徹底している。家事や外出といった日々の活動も、こちらからも提案し、ご本人に選択して頂けるように努めている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の基、1日の予定は毎朝の会話の中から話し合っ決めてるようにしている。お一人おひとりの生活のペースに合わせ、希望に添った支援を心がけている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類はご本人に選んで頂けるようお手伝いしている。今まで通りのその人らしいスタイルを大切にしている。またアクセサリをプレゼントし、安全に気をつけながらも好みのスタイルが継続できるようお手伝いしている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成から食事の準備、片付けまでを入居者の皆様が力を合わせ、料理に取り組んでいる。季節の食材、行事食等入居者様にその都度伺いながら、「食」からも季節を感じて頂いている。また、「食事の時間は心が開く時」ということを全職員が理解し、入居者様と一緒に食事をする時間を大切にしている。	各ユニットで、季節感や行事・イベント等を盛り込んだ献立を入居者と一緒に考え、手作りの食事を提供している。法人内の管理栄養士が栄養バランスを確認している。入居者の得意メニューも献立に採り入れ、入居者個々の好みや得意を活かして調理・おやつ作り・後片付け等に参加している。アイランドキッチンが設置され、参加しやすい環境である。職員も同じ食事で食卓を囲み、家庭的な雰囲気の中で食事が楽しめるようにしている。通常は、個別・グループ・ユニット等で外食・喫茶に出かける機会を数多く設けている。今年は外食が困難な状況であるため、ホーム内で「食」が楽しめる機会作りを強化し、入居者の希望食や行事食、おやつ等の内容を充実させている。夏祭りには屋台風のフランクフルトやたこ焼き等を企画し、クリスマスにはキャンドルのテーブルセッティングやランチョンマットにもこだわり、飾りつけの制作等準備段階から入居者も参加している。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は入居者様と一緒に食事をすることによって食事、水分量と共に好み等を把握している。体調に合わせたものになるようにし、健康面も考慮している。栄養面は法人内の栄養士にアドバイスを求めている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、衛生面だけでなく、身だしなみの部分も含め、食後の口腔ケアを実施している。口腔ケア時、口腔内の状態を観察しつつ、これまで通りご本人にさせていただくように支援している。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄のパターン・習慣をiPadに記録している。ご本人の自尊心に配慮し、極力肌着を使用していただけよう工夫している。トイレでの排泄を促し、失敗を減らせるようにケアを行っている。紙パンツ等の使用をできるだけ減らしていく努力をしている。	iPad記録を活用して入居者個々の排泄状況・排泄パターン・習慣を把握し、基本的に日中はトイレでの排泄を大切に支援している。日々の支援で気付いた事は連絡ノートで情報共有し、排泄状況や支援方法をカンファレンスで検討しながら排泄の失敗や排泄用品を減らし、自立に向けた支援に取り組んでいる。周囲に配慮した誘導の声掛け等、利用者の羞恥心や不安感の軽減に努めている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食生活において食事のメニュー、水分量を工夫し予防に努めている。便秘傾向の方は特に、水分摂取が十分に行われるよう注意している。また、体操等運動や入浴時の腹部マッサージでも便秘が解消されるように努めている。		

グループホームオリンピア篠原

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人おひとりの習慣や希望に応じて、入浴日は固定せずに入らせていただいている。入浴中は安全に配慮しながら、その方がリラックスし満足を得られるように、ゆったりと入っていただけるよう支援している。	入居時にこれまでの生活習慣を把握し、入居者個々の希望やその日の気分、体調に合わせて曜日や時間帯を決めず入浴支援を行っている。iPadと「入浴表」で実施状況を把握し、声掛けやタイミングを工夫しながら、全入居者が週2回以上入浴できるように支援している。入居者毎にさら湯にし、職員とマンツーマンで会話を楽しみながら、自身のペースでゆっくり入浴できるよう配慮している。希望や状況に応じてシャワー浴、足湯にも対応し、安全面に配慮して必要時は2人介助で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの体調や、生活リズムを大切に、ホームとしての就寝・起床時間は設けていない。夜間眠りにくい時には眠ることにこだわらず、ご本人のペースで休んでいただけるようにスタッフが一緒に過ごすこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時は毎回処方内容を確認し、変化があった際は内容を申し送りノートに記入し、最新のお薬リストで全職員が確認できるようにしている。薬の内容や飲み合わせの相互作用等、可能性のある副作用を理解し、安全な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりのこれまでの生活歴を伺い、入居者様が中心となって生活を送っていただけるよう、家事や様々な事柄を分担していただいている。皆様が自然と助け合い生活が送られている。		

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の外出は「出かけた」と仰る時に、その都度外出して頂けるように努めていたが、コロナ禍において外出の機会がほぼなくなってしまった。理美容や通院等必要最小限の外出しかできなかった。日々の会話の中で出てきた行きたい場所、馴染みの場所、思い出の場所等はスタッフが聴き止め、いつか実現できるようスタッフ間で共有している。	例年は入居者個々の希望に応じて、散歩・買い物・美容院・外食・教会等への日常的な外出、また、初詣・美術館・動物園・季節行事・児童館交流等へ積極的に外出を楽しむ機会を設けている。現在は感染防止に留意して、理美容・通院など外出は必要最小限にとどめ、近隣への散歩・玄関前のプランターで花を育てながら外気浴する等、戸外に出かける機会作りに努めている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまで通りの生活をしていただくために、お買い物の際には入居者様ご自身が直接支払いをして頂いていたが、コロナ禍で買い物にも行けなくなっている。買い物に行けるようになった時には、ご自身のお財布でお買い物をして頂けるよう、準備している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、個人の携帯電話やホームの固定電話で直接お話をさせていただいている。また、面会の自粛期間には、テレビ電話やSNSを使って、連絡を取り合っている。年賀状やお手紙のやり取りができるように今まで通り支援しており、お手紙は書きたい時に直ぐに書いていただけるように準備している。		

グループホームオリンピア篠原

自己 番号	第三 者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットを一つの家としてとらえ、共用スペースには季節感のある花や写真を飾っている。また、季節を感じる作品やアマビエやだるまといった、魔除けのオブジェを作り、コロナ封じを願った。また、皆様が自由に過ごして頂けるように、状況に合わせて配置換えを行い、入居者様同士の会話が弾むよう工夫した。	共有空間は明るく開放的で、清潔感があり、入居者は各ユニット間を自由に行き来している。リビングは、テーブル席やソファの配置を随時工夫し、一人で過ごす、少人数で会話を楽しむ、多人数で制作や活動する等、思い思いに過ごせるよう配慮している。得意分野を活かして家事に参加したり、趣味の編み物やフラワーアレンジメント、トランプ、オセロ、百人一首、書道等を楽しみ、季節の生花や入居者の作品も飾られ、自宅同様の家庭的な雰囲気がある。現在は外出行事が困難なため、職員と入居者が共同で、季節感のある大作の壁飾り(花火・ハロウィン等)・オブジェ(アマビエ・だるま)・工作(暖炉)等の制作に力を入れ、一緒に飾り付けを行い、季節感や楽しさを演出し、リビングで居心地よく楽しめるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士がゆっくりとお話をして頂けるよう、リビングから見えにくい場所にもソファを設置したり、自由に居室を訪問して、語り合ったり出来るようにしている。また、リビングにはカラオケやカルタなど好きなことを楽しんでいただけるよう工夫している。		

グループホームオリンピア篠原

自己 番号	第三 者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで通りの生活を送って頂くため、馴染のある家具をもって来て頂いたり、お好みの家具や物品を使用して頂けるよう、ご家族と相談している。居心地よく安心して暮らせる環境になるようお手伝いをしている。	居室に洗面台・ベッド・クローゼットが設置されている。家族の協力を得て、筆筒やテーブル、椅子、鏡台、テレビやラジオ、仏壇、自作の油絵、書籍等、使い慣れた物や好みの物が持ち込まれ、塗り絵の作品や児童館からの敬老祝い等を自由に飾り、その人らしさを感じられる。居室担当職員が入居者と一緒に掃除やシーツ交換を行い、入居者が衣服を決定し、自由におしゃれができる様に整備する等、自宅同様の生活環境づくりに取り組み、安心して居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの状況に応じてお料理等の家事に限らず、趣味や得意な活動ができるように提案したり、促したりし、お一人おひとりが楽しみながら、かつ自立した日々を送って頂けるように努めている。		